

ケース・ゲルド架空史[The Case Geld Alternative History]:

または『私はどのようにして心配するのを止め、自身の住む世界を愛することを学んだか』

タイ・ボンバ[Ty Bomba]



Courtesy of Russ Arendell

本 ゲームの時間軸は、1940年5月22日、ヒトラーが前日のアラスでのイギリス連合軍の反撃は、確かに非常に劇的で危険に見えた、が失敗したという報告を受けた後に、我々の宇宙の時間軸と分岐する。歴史上では、この出来事は現場にいたあるドイツ軍師団長からの誇張された報告書により、初めて彼に説明された。その将校、エルヴィン・ロンメルは、絶望的な状況下において自分が最高に英雄的であるように見せるべく、この報告書を記述したのである。そのため、独裁者が海岸へ突進する機動師団群に関して過度に慎重になる原因となり、ドイツ空軍がその努力を継続する最中(そしてもちろん失敗する)、[陸軍に]停止するように命じたのである。

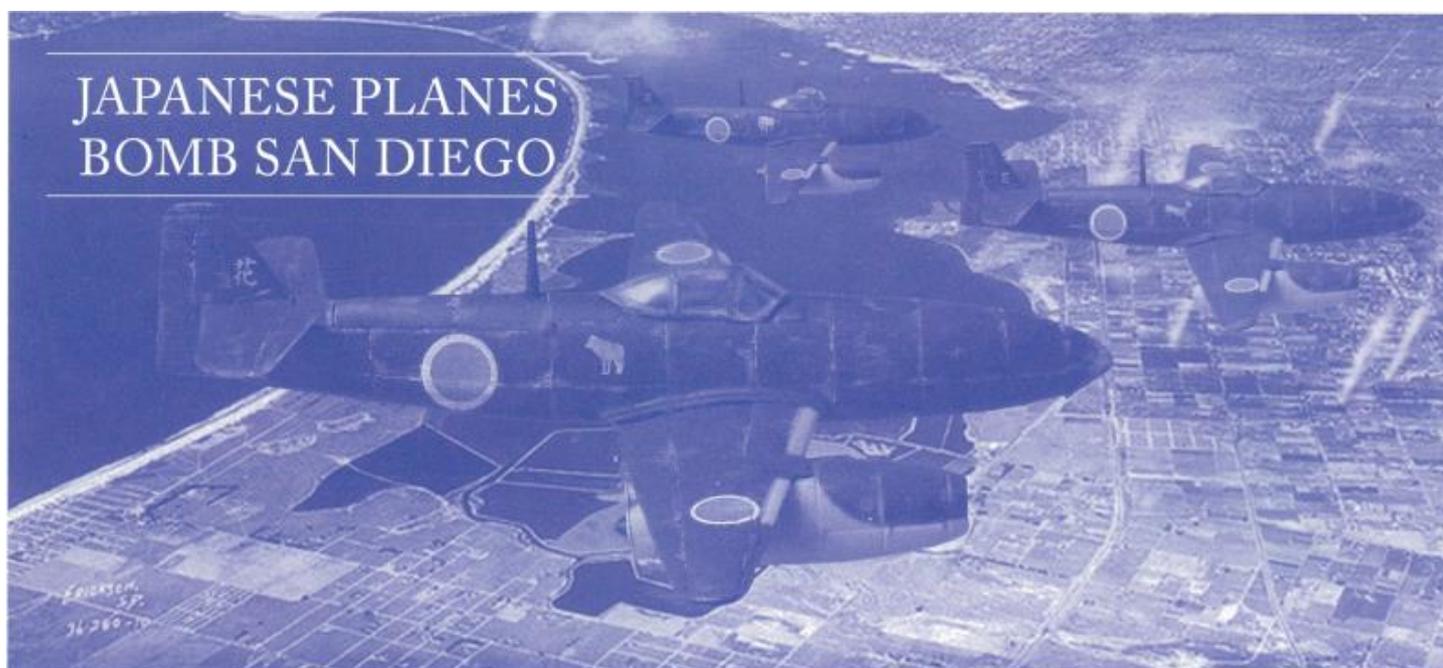
代わりに、我々は次のように想定する.....

ヒトラーはグデーリアンおよび現場の師団長たちにメッセージを送り、その一部は次のような書きぶりである:

「アラスからの戦訓は 88 ミリ高射砲を前線に配備し、それを維持することである。戦略上の教訓は、何が必要かを気にしないということである: 可及的速やかに海峡の港湾を占領し、そうして敵第1軍集団のすべてを孤立させて破壊することである。その努力の結果、貴公らの諸師団が一時的に『aus dem Kampf』、つまりフランス人の言うところの『horse de combat』に陥ったとしても、それはそれで仕方がない! その後に我等はそれらを再建すればよいのだ!」

25日の日没までに、これら港湾ははすべてドイツの手にし、英仏第1軍集団のケッセルシュラハト(包囲殲滅戦)が開始された。同月末には、その戦いは終わり、40万人以上の捕虜がドイツの手に落ちた。

BEFは当時の戦闘能力を有するイギリス地上軍のほぼ全部隊を代表していたが、捕虜になるか戦死したかのどちらかだった。ヒトラーの予想通り、ドイツの機動師団群は大打撃を受けたが、犠牲を払って戦争に勝利したのである。



Courtesy of Russ Arendell

ロンドンではこの悲報を受け、5月10日にチャーチルを首相に就任させた連立が崩壊し、チャーチルは辞任に追い込まれた。新政府首班のハリファックス公は直ちに、パリのフランス政府と共に、(今だ中立を保っていた)イタリアの独裁者ベニト・ムッソリーニに停戦と和平交渉の仲介を依頼した。

その結果締結された「第二次ヴェルサイユ条約」の骨子は以下の通りである。ナポレオンがアウステルリッツで勝利して以来の最大の戦略的転換を意味した。

- ・ イギリスとフランスは、反コミンテルン条約(通称「鋼鉄同盟[Pact of Steel]」)に調印し、特に外交面でドイツの従属国となった。
- ・ 両国は彼らの海軍の主要艦艇、空軍の航空機、および陸軍の重砲や自走車両の全てをドイツ軍に引き渡す。また将来生産されるこれら兵器群は、全てドイツに最低価格で売却することを約束した。
- ・ オランダと共に、日本が希望するアジア植民地の天然資源についても、割安価格で日本に輸出することにも彼らは同意した。
- ・ その見返りとして、ドイツによる両国領土の占領はない。
- ・ エジプトは仲介への貢献によりイタリアに割譲された。

その後まもなくカナダ、ニュージーランド、オーストラリアは独立を宣言し、議会共和制を宣言し、お互いに相互防衛条約を締結した。南アフリカではクーデターにより「ボア共和国」が成立、直ちにドイツに反コミンテルン条約への加盟を申請し、あっさり受理された。

チャーチル率いる条約拒否派の小グループは、数隻の駆逐艦に分乗してイギリスを脱出した。彼らはカナダ到着後、極めて小規模なBEFを再編成した。

1940年の残りの期間、ドイツはバルカン半島を併呑し、スペインを枢軸国陣営に引き入れた(スペインはこの時ポルトガルを侵略し併合した)。ドイツ軍は直ちにアゾレス諸島とカナリア諸島に大規模な基地群を建設する。

1941年晩春、拡大した枢軸国は欧州方面からソヴィエト連邦を侵略し、日本は極東で侵攻した。

ヒトラーの揺るぎない威信に対抗できないドイツ軍は、初期にレニングラードを攻略するという彼の計画に応じてソヴィエト連邦に侵攻した。8月末までにレニングラードを占領し、北方軍集団の2個軍を南下させ、モスクワ攻略を支援させた。スターリンがクレムリンで戦死した後、ジューコフは政権内の共産主義者を打倒し、軍による「全ロシア連邦[All Russia Union]」を成立させた。その新政府は欧口方面におけるドイツの領土要求を満足させる条約に調印した。



Courtesy of Russ Arendell

ソ ヴィエト連邦の崩壊により、日本は中国に視線を変え、中国全土を制圧できた。その結果、南方資源地帯と陸路で直接連絡できるようになり、合衆国によるチョークポイントであるフィリピンからの戦略的バイパスを得ることができた。同様にシベリア横断鉄道はドイツとの戦略的な直接連絡を可能にし、ロシアのコーカサス原油の輸入をも可能にした。

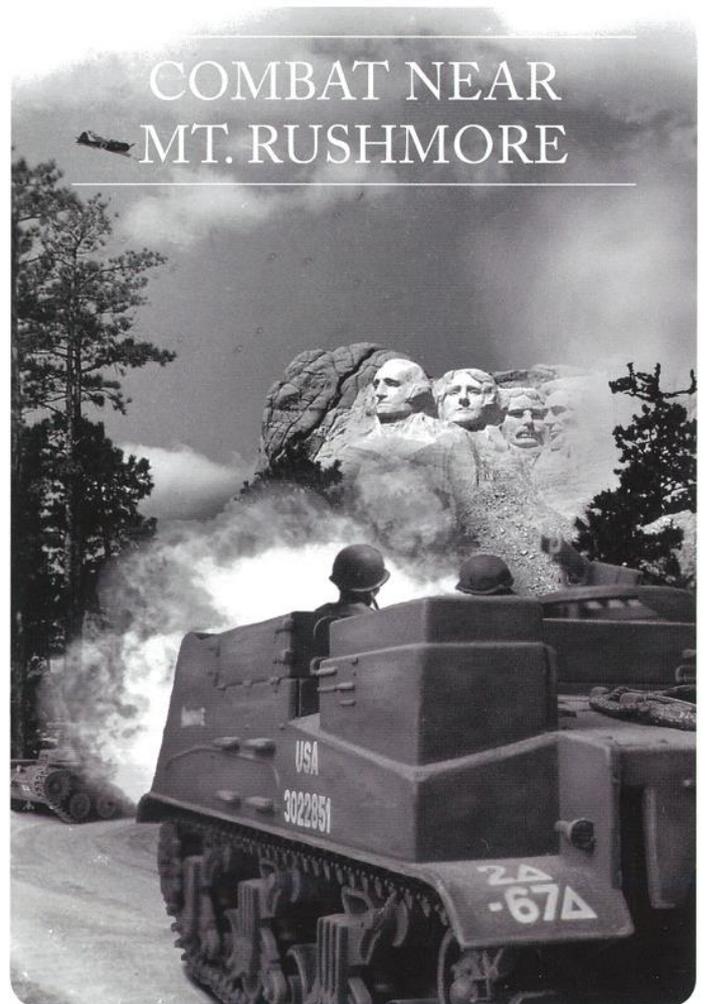
こうしてイギリスの地政学者ハルフォード・マッキンダーが数十年前に予測した、欧州・アジアの超大国が誕生した。それは北米の覇権に対抗しうる十分な人口基盤とそれに見合う天然資源、経済生産力を兼ね備えた存在である。

一方合衆国には真珠湾攻撃が無かったため、「アメリカ第一主義 [America First]」の孤立主義が 1941 年末になっても政治的優位を保っていた。フランクリン・D・ローズヴェルトはフランスとイギリスの崩壊後、自国の軍備拡張を実行に移せはしたが、合衆国が戦渦に巻き込まれないうちは要領を得ていなかった。

1942 年春、ドイツと日本は残敵に対する海空における共同の攻勢を開始した。日本はフィリピンを経てハワイ、オーストラリア、ニュージーランドに上陸した。これらニカ国から脱出した人々はカナダに向かい、そこで小さいながらも断固とした決意を持つ軍隊を編成した。ドイツは大胆な海空作戦によりキューバとアイスランドを攻略した。

1945 年、戦役の季節が到来すると、ヒトラーは秘匿呼称「ケース・

ゲルド(『オペレーション・マネー』)という北米両岸侵攻の舞台を整えた。この作戦名は合衆国の物質主義文化に対する彼の軽蔑と、ドイツの最後の敵を打ち負かすことにより得られる最後の大きな見返りを意味していた。[訳注：独 Geld は「資金、資産、お金」等の意。Case は英語。同左独語は Fall である。]



Courtesy of Russ Arendell

JAPANESE TANKS IN SNOWY IDAHO



Courtesy of Russ Arendell